

夫と2人で農家をしながら、個人で助産師もしています。
以前はJA高知病院で看護師と助産師をしていました。両方の資格とも働しながら取りました。助産師は、生命の誕生の瞬間に立ち会えるという貴重な体験ができる仕事なので、やっていて良かったと思います。
仕事以外では、JA南国市女性部の部長を務めています。



何もない日が
苦手です！

たかはし さちこ
高橋 幸子さん
(岡豊町)

にこにこライフ 182



主人が元々農業をしていたため、結婚してすぐJAの女性部に所属したのですが、当時はほとんど活動には参加していませんでした。でも昔から、地域に参加して、地域との繋がりを作りたいとは思っていたので、退職を機に色々な活動に参加するようになりしました。今では、道の駅の農家レストランにも参加しています。
趣味は太極拳です。毎週火曜日に教室に通っていますが、農家レストランの当番と重なることもあり、なかなか行けなくなっています。でも休むと体がなまるので、できるだけ行くようにしています。太極拳は武術なのでとても難しいですが、運動前のストレッチだけでも体がほぐれてお勧めですよ！
毎日何かをしていて何もない日が減多にないので、いざ何も予定がない日ができる、何をしたらいいかわからず、長い間連絡を取っていなかった友達に急に電話をしたりして、何事かと驚かれます(笑)
子どもが小さい頃、仕事・育児・資格取得と超多忙な日々を送っていたという高橋さん。見習いたいです！

市民からのお便り (親子クイズ) 今年も新米の季節到来。県外の親類や友人に送ります。

親子クイズ 520

Q 香川県の高瀬町で見つけたこの小屋の中には、農産物がギッシリ吊るされています。この農産物の名前を当ててください。

ヒント 生産量は北海道が全国1位で、全国の総生産量の半分以上を占めています。



■応募締切／9月14日(月)必着
■あて先／〒783-8501
南国市大浦甲2301
南国市企画課「親子クイズ」係
*はがきで応募
■賞品／正解者の中から抽選で、5名に図書カード(1,000円)を贈呈

★応募総数／33通 ★正解率／91%

親子クイズは、広報委員が毎月順番に考えています。

【第519回解答】

- ① 粳(もみ)
- ② 玄米
- ③ 米糠(こめぬか)、ぬか

【第519回当選者】

岩内 幸夫 (領石)
小山 京子 (岡豊町)
長尾 宏 (大浦甲)
山本 ちも子 (十市)
山本 美智代 (十市)

市民からのお便り (親子クイズ) 小学5年の時、理科の授業で、バケツで稲を栽培したことを思い出しました。

55 人権学習シリーズ

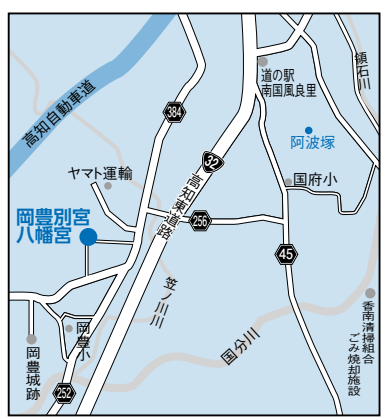
人前で話すときに気を付けるべきことについて特集している番組で、効果的な伝え方として、親しい人に話し掛けるような言葉遣いや、感情豊かであることなどが大切であると説いていました。
人前、特に多くの人前で話すことが苦手な人は少なくないものと思われまふ。私もそうですが、この解説を聞いて少し驚きました。大勢の前で、実は親しい人に話すような親しさが重要であるとは。そして、ほととしました。少人数の親しい会話が、実は人前で話すときの基本であるということではないでしょうか。それならば、自分にもできそうな気がしてきます。ちよつとした立ち話、友達とのおしゃべり。これらは人前で話すことの訓練でもあるということになります。
未来を担う世代に求められているのは、世界の人々と交流し共に生きる力です。世界規模のコミュニケーション能力が求められていると、言うことができるかもしれません。人権の問題も、コミュニケーション不足や行き違いから起こることが少なくありません。けれども今、子どもたちに、そのコミュニケーションの力が育ちにくいことが問題となっています。核家

「コミュニケーション能力を養うとは？」
族で家族同士が会話する機会もありなく、子どもはゲームなどによる独り遊びで時間を過ごしがちなことなどの事情が背景にあります。現代に適したコミュニケーション能力の磨き方はないものでしょうか？
保育園に通い出すと、急に言葉が増えるという話を聞きます。図書館などの読み聞かせの催しも良い機会ではないでしょうか。家庭の中でも、短くともゆつくりと思いを通じ合わせる時間が持てる状況は違ってくると思います。一人と一人、あるいは少人数の会話ややりとりが、実はコミュニケーションの基本であること、そういうことは言われてみれば当たり前のことかもしれない。けれども、その大切なことを大事なことでして日々生活できているだろうか、と思います。皆さんはいかがでしょう。日々触れ合う、一人一人ときちんと向き合い、意思疎通していくこと。その延長線上に、子どものコミュニケーション能力の育成や人権尊重、そして世界の平和もあるのでは。と思う初秋です。

※問い合わせ
人権啓発広報委員会
(880・6569)

なんこく歴史散歩 第34回

岡豊城跡から県道384号線を挟んで北東の山の、長い階段を上がつた先に岡豊別宮八幡宮があります。「高知県神社記」によると、弘安8(1285)年6月25日、大和の国三輪神社から祭神を迎え勧請したと伝わっており、代々宮司を務めた谷氏の祖先も大和の国三輪山から土佐に移り、谷左近や谷泰山、谷干城などの著名人を輩出しました。
八幡宮には前回の阿波塚の逸話を始めとして、長宗我部氏の戦勝祈願についての伝説が数多くあります。元親が四国征伐に際し、「弓を射ると弦が切れ、射た矢はみじんに折れてしまふ」という不吉な夢を見たので、宮司の谷左近に夢判断をさせたところ、左近は「さてもそれはよい夢でございます。弓が強ければ弦が切れ、矢が当たれば必ず損するの当然のこと、これはめでたい夢でございます」と答えたので、元親は八幡宮の御託宣と考え、左近献上の刀を八幡宮の利剣として四国征伐に向かい、常に陣中では帯びていたといいます。
八幡宮には、長宗我部氏ゆかりの由緒ある宝物を蔵していました。



岡豊別宮八幡宮

※問い合わせ
生涯学習課文化財係
(880・6569)